

令和6年度
シラバス

教科・科目	商業科・簿記	単位数	4
-------	--------	-----	---

学年・クラス	2 学年（必修・ 選択 ）	担当者	保坂剛司
使用教科書	新簿記 新訂版（実教出版）		
使用副教材	最新反復式 簿記検定問題集 全商3級（実教出版）		

目 標

企業において日常発生する取引を仕訳し、勘定記入を経て、決算に至る簿記の基本的な仕組みについて理解させるとともに、帳簿や財務諸表を通じて、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を育成します。

授業の内容・進め方

- 授業内容：簿記に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、仕訳や諸表簿から様々な情報を読み取り、最終的には財務諸表とよばれる企業の経営状態を表した「損益計算書」および財政状態を表した「貸借対照表」、双方を組み合わせた「精算表」の作成を目指します
- 授業の進め方：教科書、問題集、プリントを中心に学習していきます。
- 考查の内容：主に授業で学習した内容を中心に、問題集やプリントからも出題されます。内容は簿記の基本である仕訳から帳票類の記述、財務諸表の作成までの範囲となります。

評価規準（観点別達成目標・評価項目）

評価の観点	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
観点別達成目標	現金と預金の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	現金と預金の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	現金と預金の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価の割合	1	1	1

	評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価項目	定期考查（年4回）	◎	○	○
	小テスト（適宜実施）	○	◎	○
	課題提出①（適宜実施）	○	○	◎
	課題提出②（夏季・冬季休業中の課題）	○	◎	○
	授業への参加（通年）	○	○	◎

・ **観点別評価** 3つの 観点別に各評価項目の達成率でA・B・Cを決定する。

A：十分満足できる B：おおむね満足できる C：努力を要する

・ **評価・評定** 観点別評価から総合的に成績（評価・評定）を決定する。

指導計画及び中単元別評価基準

学 期	月	単元	学習内容	評価規準			
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	
前 期	4	第1編 簿記の基礎	第1章 簿記の基礎	簿記の意味・目的・歴史や資産・負債・純資産（資本）・収益・費用の意味および損益計算書・貸借対照表の作成、さらに簿記一巡の手続きに関する基礎的・基本的な知識を身につけ、内容を理解している。	なぜ、簿記をつけるのか、なぜ、勘定を設けるのか、貸借が平均するのはなぜか、資本の増減を収益と費用に分けて記録するのはどうしてかなどについて、考えている。	簿記の意味・目的・歴史などの簿記の基礎的内容や資産・負債・純資産（資本）・収益・費用の意味および損益計算書・貸借対照表の作成、さらに簿記一巡の手続きに関心をもち、自分から進んでまとめたり、問題演習に取り組もうとしている。	
	第2章 資産・負債・純資産と貸借対照表						
	第3章 収益・費用と損益計算書						
	第4章 取引と勘定						
	第5章 仕訳と転記						
	第6章 仕訳帳と総勘定元帳						
	5						
	6						
	前期中間考查						
	7		第7章 試算表 第8章 精算表 第9章 決算	上記に同じ	上記に同じ	上記に同じ	
8	第2編 取引の記帳 (その1)	第10章 現金・預金などの取引 第11章 商品売買の取引 第12章 掛け取引 第13章 手形の取引	商品売買取引など個人企業における基本的な取引の構造を理解し、取引の記帳に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。また、各種補助簿の役割を理解し、簿記の目的の一つに財産管理があることを理解している。	なぜ、このように仕訳するのか、なぜ、補助簿はこのように記入するのか、補助簿の役割は何かなどについて、考えている。また、資本に関する取引について、資本が計算上の概念であるという点から取引の意味を考えている。 さらに、経営活動を明瞭に表現することができている。	商品売買取引など個人企業における基本的な取引の記帳は、どのように行うのかについて関心をもち、自分から進んでまとめたり、問題演習に取り組もうとしている。また、課題の提出などは、期日までに確実にを行い、理解できない内容については、自分で調べたり、積極的に質問している。		
前期期末考查							

学 期	月	単元	学習内容	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
後 期	9		第14章 有価証券の取引 第15章 その他の債権・ 債務の取引 第16章 固定資産の取引 第17章 個人企業の資本 の取引取引 第18章 販売費及び一般 管理費と税金の取引	上記に同じ	上記に同じ	上記に同じ
	10					
	11	第3編 決算 (その1)	第19章 決算整理 (その 1) 第20章 8桁精算表 第21章 帳簿決算	決算手続きの意味 を理解し、決算手続 きに関する基礎的・ 基本的な知識を身 につけている。ま た、財務諸表の作成 に関する基礎的・基 本的な知識を有し、 財務諸表の役割を 理解している。	なぜ、決算整理を 行うのか、なぜこ のように整理仕訳 を行うのかなどに ついて考えてい る。また、財務諸 表を活用して企業 の状況について判 断している。 さらに、決算結 果を財務諸表に明 瞭に表現できてい る。	決算整理を伴う決算 手続きは、どのよう に行うのかについて 関心をもち、自分か ら進んでまとめたり、 問題演習に取り 組もうとする。また、 作成した財務諸 表を見て企業の状況 を把握しようとして いる。
		第4編 会計帳簿と 帳簿組織	第22章 会計帳簿 第23章 伝票	帳簿と帳簿組織・3 伝票に関する基礎 的・基本的な知識を 身につけている。ま た、3伝票制による 記帳の合理化を理 解している。	一般的に分課制度 を前提に、どのよう な帳簿が必要な のかについて考 え、入金伝票・出 金伝票・振替伝票 の記入の違いにつ いても考えてい る。	帳簿の種類や帳簿全 体の仕組み、さらに 3伝票制に関心をもち、 自分から進んで まとめたり、問題演 習に取り組もうとし ている。
		後期中間考査				
	12	第5編 決算 (その2)	第24章 決算整理 (その 2) 第25章 財務諸表の作成	費用・収益の繰り延 べと見越しなど、新 しい決算整理の意 味を理解し、決算整 理仕訳や財務諸表 の作成に関する基 礎的・基本的な知識 を身につけている。	期間損益計算の観 点から、なぜ費用・ 収益の繰り延べと 見越しを行うのか、 評価勘定の観点か ら、なぜ、減価償却 の記帳を間接法で 行うのかなどにつ いて考えている。	費用・収益の繰り延べ と見越し、有価証券 の評価など新しい決算 整理事項に関心をもち、 自分から進んでま とめたり、問題演習に 取り組もうとしてい る。
		第6編 取引の記帳 (その2)	第26章 特殊な商品売買 の取引 第27章 特殊な手形の取 引	特殊な商品売買取引 と特殊な手形取引 について、その取引 構造を理解し、そ れを合理的に記帳 する基礎的・基本的 な知識を身につけ ている。	特殊な商品売買取引 と特殊な手形取引 について、どのよう な点が特殊なの かを考え、判断して いる。	特殊な商品売買取引 と特殊な手形取引に 関心をもち、どのよう な点が特殊なのかに ついて、自分から進ん で調べたり、まとめよ うとしてる。
		第7編 仕訳帳の分 割	第28章 仕訳帳の分割 第29章 5伝票による記 帳	記帳の合理化につ いて理解を深め、特 殊仕訳帳の記帳、仕 入伝票・売上伝票の 起票に関する基礎	特殊仕訳帳の記帳 方法を学び、なぜ、 特殊仕訳帳を用い ると記帳の合理化 につながるのか、ま	記帳の合理化に関心 をもち、自分から進ん で教科書を読んだり、 疑問点を整理し、意欲 的に授業の中で確認

	2			的・基本的な知識を身につけている。	た、5伝票制が3伝票制に比べどのような点でより合理化されているのかを考えている。	しようとする態度が見られる。
	3	第8編 本支店会計	第30章 本支店の取引 第31章 本支店の財務諸表の合併	本支店間および支店相互間の取引の記帳や本支店の合併財務諸表の作成に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。	支店会計が独立している場合、本支店間の取引の記帳に際し、なぜ支店勘定と本店勘定が必要なのかについて考え、いろいろな場面において適切に判断し記帳できている。	支店会計が独立している場合の会計のしくみについて関心をもち、自分から進んでまとめたり、問題演習に取り組もうとしている。
		後期期末考査				